

9月、林道沿いなどでよく見かける花にミズヒキがあります。細長い花穂（かすい）に赤く小さな花が並んで付きます。でもよく見ると上側が赤く、下側が白くなっています。まさに、紅白の「水引」です。紅白の見え方は、上から見ると赤く見え、下から見上げると白い花に見えるのです。一度、下から見上げてみてください。いつもと違った花に見えますよ。萼は4裂し、上3片が赤色、下の1片が白色なのです。でも花が開いている状態を見るには注意力が必要です。通常は閉じて、雌蕊が突き出ている状態を見ることが多いかと思います。また、この突き出た雌蕊が所謂「ひつつき虫」になります。学名は、*Antenoron filiforme* で、*filiforme* は、「糸状の」という意味です。大きな葉には普通「ハ」の字状の黒斑が入り、アクセントになり目立ちます。

葉には普通毛が密生していますが、無毛で光沢がある葉をもつものが、シンミズヒキ（新水引）です。あまり多くないそうですが、気をつけていないと違いはわかりませんね。私もはっきり認識して見たことはありません。葉の黒斑もないようです。

上側の赤い部分も白く、花全体が真っ白なのが、ギンミズヒキ（銀水引）です。これは、私でもすぐわかります。吉祥山や舟着山で見かけたことがあります。

以上はタデ科に属しますが、同じように長い花序を持ち、黄色い花をつけるキンミズヒキ（金水引）は、ミズヒキとは花の形が全く異なります。バラ科なので、花弁が5枚あります。また、キンミズヒキの果実には鉤状の棘があり、これも「ひつつき虫」の一種です。

また、花の小さなヒメキンミズヒキもありますが、これもその気で見ないとキンミズヒキとの違いはわからないかもしれません。

※⑭6月で、左下の写真「コアブラツツジ」は誤記で「サラサドウダン」です。訂正しお詫び致します。

林



ギンミズヒキ



キンミズヒキ